

コロナ禍における地域産業の活性化とそれ に貢献するための自身の役割について

2グループ

研究テーマ設定にあたって

▶ テーマ設定理由

- ▶ 静岡県の地理的条件により、都市部に多くの若者が流出してしまう。
- ▶ その点も考慮に入れつつ生徒の進路決定の助長も含め、まずは静岡県の地域産業について深く理解し、興味・関心を持つことが必要である。
- ▶ 現在、地域産業は観光業、食品業を中心にコロナ禍で大きく影響を受けており、経済だけでなく食品ロスにつながっている例もある。
- ▶ よって地域産業を理解し、興味・関心を持ってもらうために今この状況・変化・課題の理解、課題に対する自身の役割を探究することが必要である。

研究テーマの設定にあたって

▶ メンバー個々の課題意識



食品栄養

コロナ禍により打撃を受けた観光業、食品産業などの影響から地域の特産品(食品など)の状況を調べ、コロナ禍において生まれた課題や食品ロスの問題から、どう自分自身が地域に貢献できるのか考える



経営情報

コロナが地域に及ぼした影響を観光客の推移と観光を支える交通手段の一つである鉄道業の財政面のデータを用いて考える



国際関係

コロナ禍以前と以後で静岡県の特産品(食品など)の輸出状況や輸入状況の変化を理解・分析し、コロナ禍によって変化してしまった社会で自身がどのように地域産業に貢献できるか考える

研究テーマ設定にあたって

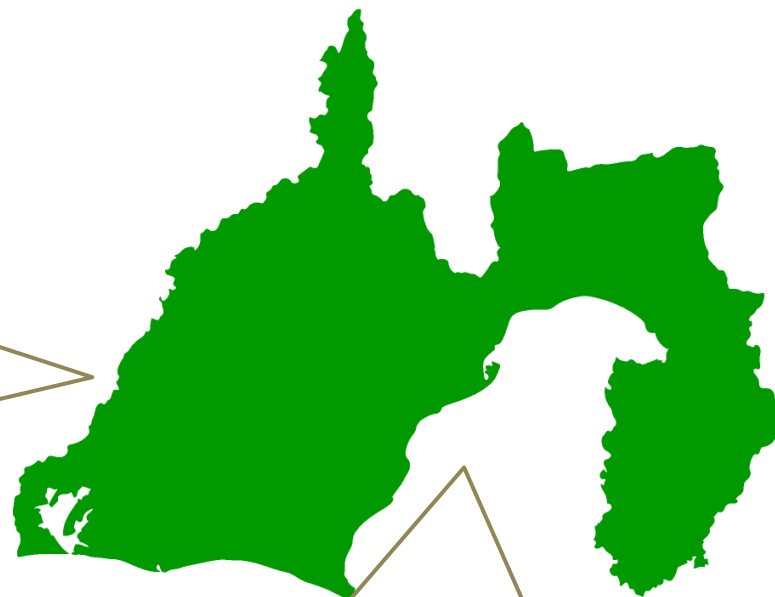
- ▶ 学習の対象者は…
 - ▶ 進路などの観点も含まれているため
 - ▶ **静岡県**の**高校生**とした。



静岡県の地域産業って何がある？

西部

輸送用機械(オートバイ)、楽器、
繊維産業、メロン、みかん



東部

観光産業、製紙産業、わさび

中部

プラモデル、かつお・マグロ、缶詰、サ
クラエビ、茶(牧之原)

静岡県地域産業の現状(コロナ前)

地域産業を知るために「静岡県経済産業部商工業局地域産業課 データで見る静岡県の地場産業(平成30年3月)」を参考にし、以下の4点をまとめた。

- ・ **プラモデル**→全国シェア9割。少子化やコンピュータゲームとの競合で縮小傾向。近年、海外での需要拡大で製造品出荷額はやや増加中。
- ・ **楽器**→少子化による需要の減少(国内)。
- ・ **輸送用機器(オートバイ)**→海外での生産拡大(静岡県の産業空洞化)、利用者の高齢化、若年人口の減少で国内販売台数低迷。
- ・ **製紙産業**→電子媒体の浸透などの社会生活の影響で出荷額は減少傾向。

出典：静岡県経済産業部商工業局地域産業課 データで見る静岡県の地場産業(平成30年3月)
<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-560/documents/29deta-jiba-sangyou>

地域産業の現状(コロナ前)

次に、静岡県の特産品である茶の現状について静岡新聞の記事を参考にまとめた。

▶ **茶**→2019年の茶の産出額は、生産量で日本一の静岡県が、前年比18.5%減の251億円と激減し、初めて鹿児島県に抜かれた。

なぜ静岡県の茶の産出額が少なくなったのか。

- 静岡県の茶は、勾配がある土地での生産→大型機械化できない。
- 生産者の高齢化→栽培面積の減少。
- 急須で入れるリーフ茶の需要の低迷。

静岡の地域産業は・・・

▶ これらのことから

生産拠点の海外シフトによる空洞化や少子高齢化、社会環境の変化による影響を受け、全体的に低迷傾向にあると考えられる。

では、静岡県の地域産業は、コロナ渦でどう変わっているのだろうか。

静岡県の観光業の今

- ▶ データより地域別にみると…
 - ▶ 全体的に減少傾向だが
 - ▶ 西北遠地域は増加している
 - ▶ 東部、中部、西部に分けてみると
 - ▶ 東部、中部➡減少
 - ▶ 西部➡同じ、増加
 - ▶ データより感染が大きく拡大した東京に近い東部の観光業は大きく影響を受けたと考えられる

項目 地域	観光交流客数	宿泊客数	観光レクリ エーション客 数
伊豆地域	94.4%	94.9%	94.2%
富士地域	94.5%	103.8%	93.9%
駿河地域	95.7%	112.4%	94.4%
西駿河・奥大 井地域	94.6%	93.7%	94.7%
中東遠地域	96.7%	97.4%	96.6%
西北地域	103.3%	100.0%	103.8%
一括調査	63.4%		63.4%

出典:令和元年度 静岡県観光交流の動向

<https://toukei.pref.shizuoka.jp/kankouseisakuka/data/21-010/documents/r01kankoukouryuunodoukou>

静岡鉄道の現状

- ▶ 売上はどうか
- ▶ 当期純利益(税金などを引いた最終的な利益額)の観点で比べると…

19年03月	2200
20年03月	1200
21年03月	-3800

- ▶ コロナ前の19年3月では黒字であるがコロナ禍に入り、利益は減少し21年3月では大きく赤字に転落している
- ▶ よって観光で使う人が減った分、通勤通学客の利用が大多数となりこのような結果を招いてしまったと考えられる
- ▶ 観光業の影響を大きく受けていると考えられる

出典:静岡鉄道の最新業績

<https://suik.jp/report?code=A000004217>

農作物は？

- ▶ 巣ごもり需要でスーパーの売り上げは増え、野菜などは売り上げが増えたものもあるが、**わさび、メロンなどの高級品**は、県内外の宿泊施設、飲食店に卸していたため、観光業、飲食業の低迷でコロナの影響を大きく受けた。



わさびの売り上げ、
コロナ前の1/10
に！

お茶は？

- ▶ 静岡県の茶の生産量は、コロナ渦によるイベントの中止や販売店の休業で需要が減少したことにより、大幅に減少している。
- ▶ 春にかけて収穫し、高値で取引される一番茶の2020年の生産量は、昨年から14%減、ペットボトル飲料向けに使われる二番茶もイベント中止で飲料メーカーが在庫を大量に抱えていたことから2割ほど減産した。

取り組み

売り上げの増加・食品ロスを減らすために様々な取り組みが行われている。

- ▶ わさび→コロナの感染拡大で苦境にあえぐ静岡県のわさびを民間企業と連携し、店頭販売や一般家庭にPRしてもらい、新たな販路開拓を行っている。
- ▶ メロン→コロナの感染拡大で食品ロスと農家の収入減少を助けるため、生産者団体は、メロンを買い上げ、県内の小中学校の給食で提供する取り組みを行っている。

出典(わさび) : 2020.5.27 産経新聞 (デジタル版)
<https://www.sankei.com/article/20200527-AD5QWWFJBBP75E53HIN45RMKJE/>

出典(メロン) : 2020.6.4 NHKニュース(デジタル版)
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200604/k10012457691000>

新しい生活様式になって

▶ 製紙産業

- ・オンライン化や在宅勤務でペーパーレス化が起こる。
- ・しかし、通販の増大により、段ボールなどの需要は増える。

需要の変化が
起こる。

▶ 様々なイベントや展示会のオンライン化

- ・国内最大の楽器フェアや様々な展示会もオンライン開催に。

出典：静岡県経済産業部商工業局地域産業課 データで見る静岡県の地場産業(平成30年3月)

<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-560/documents/29deta-jiba-sangyou>



輸出はどうなったか。

- ▶ ○清水港からの農水産物の輸出額は過去最高を達成した。（2020年）
- ▶ 主な要因では、世界的な需要増を背景としたインスタントコーヒーや健康志向の高まりや巣ごもり需要から緑茶、ツナ缶の原料となるびんながまぐろなどの輸出の増加によるものだと考えられている。



まとめ

- ▶ コロナ前の状態から悪化したものもあるが、変わらないものもある。
- ▶ コロナ渦のなか、需要の変化が拡大した産業、新たな需要を生みだそうとしている産業があり、そのために地域の協力、オンラインの利用を行っている。



広島県出身

静岡と比較して広島は経済の動向が鈍化し、コロナにより地域産業は厳しい状況に。これは製造業などにも波及し、雇用や輸出にも不安が見えている。地元を支える中小企業ではほぼ全ての動向において悪い変化が表れている。一方で静岡県はオンラインの活用で多くの産業が持ち直しを図っており、一部ではコロナ以前の状態に巻き戻しているところも見られる。

課題

- ・ コロナ渦、コロナ終息後の静岡の地域産業を活性化させるためにどうすれば新たな需要を生み出せるのだろうか。
- ・ 社会の環境の変化を地域産業の活性化にどう取り入れたらよいのだろうか。

何ができるのだろうか

需要の変化に対応しつつ、コロナで得た様々な可能性(オンライン)を探し、静岡の地域産業のブランド力のアピールを行うことで新たな客路を得ることもでき、食品ロスなどの問題やコロナ前の地域産業の問題も変わってくのではないか。



県内出身



広島県出身

県外から来たことを活かし、オンラインを用いて静岡県の良いところをPRする。自身の感想を率直に説明することで魅力も伝わるのではないか。

授業実践の可能性

テーマ：コロナ禍における静岡の産業の状況と諸問題に対する考えを深めよう。

- ▶ ①コロナ禍で普段の生活はどのように変化しただろうか。
- ▶ ②地域産業は今どのような状況で、どのような問題を抱えているだろうか。
- ▶ ③県や国による支援はどのようなものがあるだろうか。
- ▶ ④コロナ禍での産業に対して、自分たちが貢献できることはあるだろうか。もしくはどのような対策が考えられるだろうか。

①コロナ禍で普段の生活はどのように変化しただろうか。

まず、身の回りの物や普段の食生活など、最も身近で基礎的な生活の変化について考えを共有する。



これにより、外食の機会や旅行の機会が減少したことを確認してもらおう。そうすることで現在コロナ禍で発生している各業界の変化について意識することになることが期待される。

②地域産業は今どのような状況で、どのような問題を抱えているだろうか。

- ・ここでは調べ学習としてインターネット等を利用し、先に挙げた飲食業界や観光業界がどのような影響を受けているのか調査する。
- ・一方でコロナ禍において悪い影響をそこまで受けなかった業界についても調査し、その原因を考える。ここでは各業界が社会の混乱によって影響を受けやすい業界と受けにくい業界、対策が取りやすい業界などの枠組みを捉えることが期待される。

③県や国による支援はどのようなものがあるだろうか。

このような事態に対して、静岡県や国が行っている対策について調査する。



その対策が現在どのようなにはたらいているのか、実際の事例をもとにその効果や実績について考えたことを共有する。

④コロナ禍での産業に対して、自分たちが貢献できることはあるだろうか。もしくはどのような対策が考えられるだろうか。

各班で現状のコロナ対策による産業への影響を考え、消費者、そして生徒という立場からどのような行動を起こすことができるか考え、発表する。



調査や発表を通じて、コロナ禍において産業を支えるためにできることを考えてもらうことに加え、様々な産業について調査することで将来の進路選択に活かしてもらう。

ご清聴ありがとうございました